

# 東京都中小企業の景況

業況：悪化に歯止めがからず、4年半ぶりの低水準（平成20年3月調査）  
見通し：1ポイント増加で、大幅悪化の前月とほぼ同水準

産業労働局 商工部

## 《2月の景況》

2月の都内中小企業の業況DI（業況が「良い」とした企業割合 - 「悪い」とした企業割合）は前月に比べ1ポイント減少の 41となった。小幅ながら3ヶ月連続の悪化と歯止めがからず、4年半ぶりの低水準に落ち込んだ。一方、前年同月比売上高DIは前月比4ポイント増加の 39と、連続の大幅悪化から3ヶ月ぶりに改善した。当月と比べた今後3ヶ月間（3～5月）の業況見通しDI（ 29）は、前月比1ポイント増加で大幅に悪化した前月とほぼ同水準に止まった。

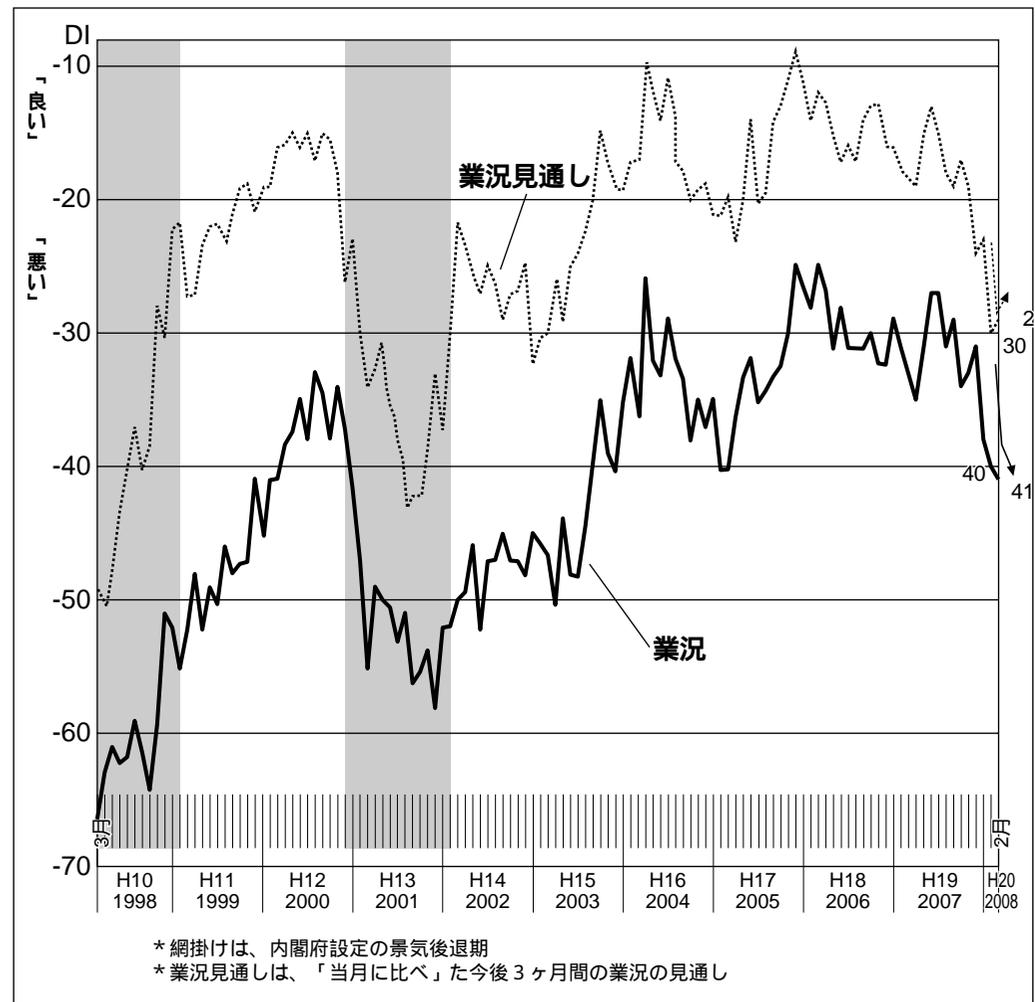
業況DIを業種別にみると、製造業は前月比2ポイント減少の 35と4ヶ月連続の悪化となった。小売業は1ポイント悪化の 56、サービス業は1ポイント増加の 33、卸売業は横ばいの 44と他3業種は変化の乏しい動きとなった。製造業では「住宅・建物」がかなり大幅な悪化となった。また製造、卸売、小売業とも「衣料・身の回り品」が大きく悪化している。なお、前月比仕入価格DI（仕入単価が「上昇」とした企業割合 - 「低下」とした企業割合）をみると、製造業は前月比6ポイント増加の +37と原材料仕入単価のさらなる上昇に見舞われている。仕入価格DIは製造、卸売、小売業とも「食料品」関連が高止まりしている。

前年同月比売上高DIを業種別にみると、製造業は前月比7ポイント増加し 29、サービス業は4ポイント増加して 38、卸売業は3ポイント増加の 38、小売業は2ポイント増加の 57と、4業種すべてで連続の悪化から3ヶ月ぶりに改善した。

当月と比べた今後3ヶ月間（3～5月）の業況見通しDIを業種別にみると、製造業（ 24）は前月比4ポイント改善、また、前月大幅に悪化した小売業（ 41）は2ポイント改善した。一方、サービス業（ 25）は4ポイント悪化、卸売業（ 31）は1ポイント減少となった。

## 業況DI・業況見通しDI(全体)

(季節調整済DI)

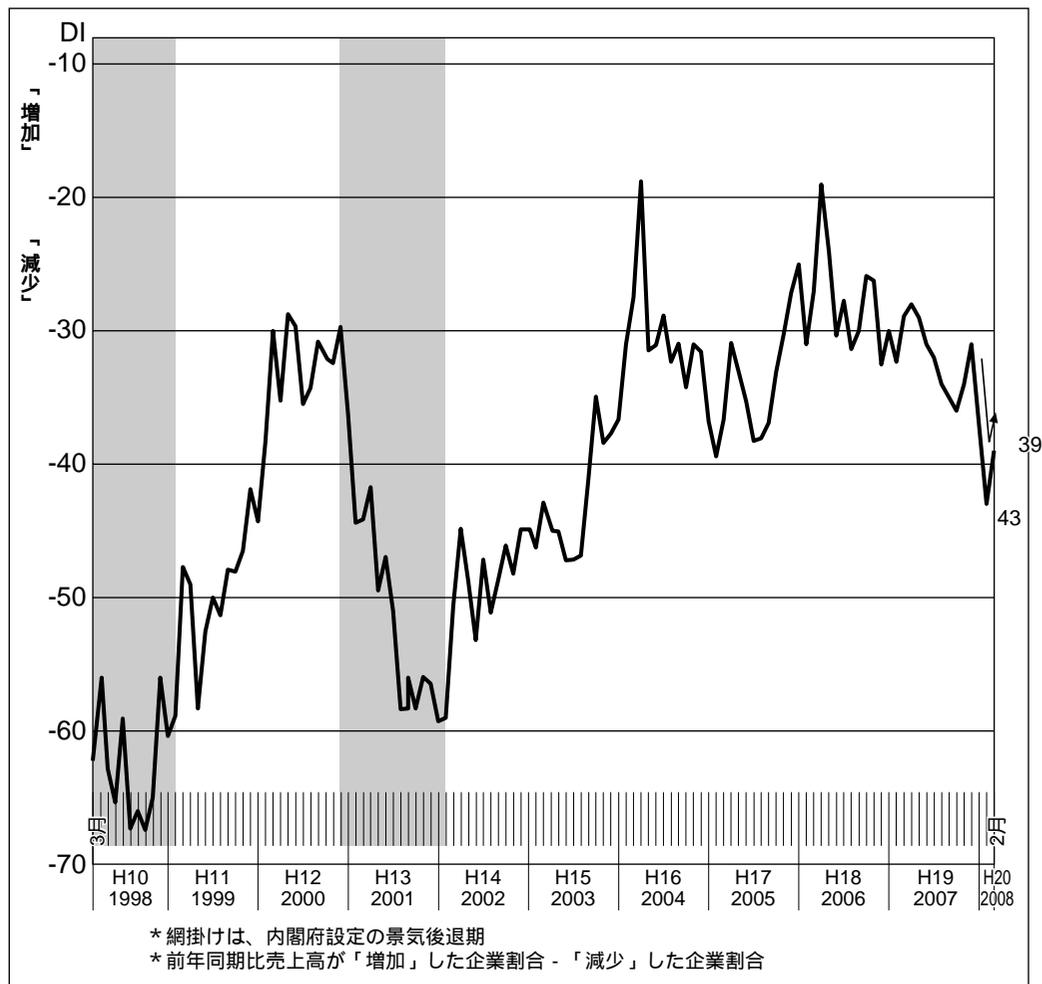


DI (Diffusion Index : 景況判断指数) 指数 (%) の算出方法は次のとおりである。  

$$DI = \frac{X - Z}{X + Y + Z} \times 100$$
 X : 「良い」「増加」「上昇」等の回答企業数  
 Y : 「普通」「ほぼ同様」等の回答企業数  
 Z : 「悪い」「減少」「低下」等の回答企業数  
 従って、DIのプラスは景況の好転（売上の増加等）、マイナスは景況の悪化（売上の減少等）を表している。

登録番号(18) 233

# 前年同月比売上高DI(全体)



## 回答企業数

	対象数	回答数	回答率		対象数	回答数	回答率
全体	3,875社	1,426社	36.8%	小規模	1,077社	462社	42.9%
製造業	1,125社	442社	39.3%	中小規模	677社	320社	47.3%
卸売業	875社	365社	41.7%	中規模	753社	358社	47.5%
小売業	875社	300社	34.3%	大規模	566社	252社	44.5%
サービス業	1,000社	319社	31.9%	規模不明	802社	34社	4.2%

## 景況指数表(業種)

・指数値(%): DI = 「良い」・「増加」等企業割合 「悪い」・「減少」等企業割合

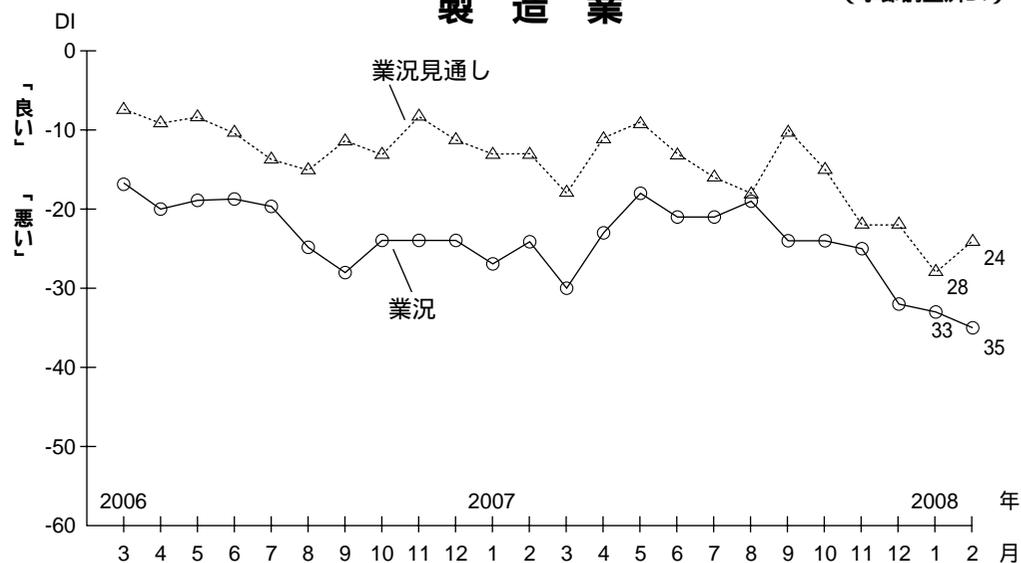
調査規模	調査対象企業数	3,875	2月の景況					今後3ヶ月間の見通し			
			業況	売上(前上月比)高	売上(前年同月比)高	仕入(前月比)格	販売(前月比)格	製品商品在庫	業(当)月比	売上(当)月比	売上(前年同月比)高
全体	1,426	36.8%	41	24	39	29	4	11	29	21	38
製造業			35	24	29	37	9	8	24	21	36
衣料・身の回り品			47	34	40	44	15	2	29	23	35
住宅・建物関連			66	53	58	41	9	20	31	25	56
紙・印刷			38	23	35	26	13	5	29	28	43
材料・部品			28	25	23	36	2	9	25	19	41
一般・精密機械等			25	15	25	27	13	5	21	17	27
電気機器			25	13	15	45	11	12	10	13	23
その他			34	11	0	67	8	7	11	18	22
卸売業			44	21	38	25	7	16	31	17	34
衣料・身の回り品			56	28	47	18	4	28	26	4	24
食料品			43	9	44	38	21	11	27	19	46
日用雑貨			35	26	29	23	6	29	33	19	17
建築・住宅関連			50	28	41	15	7	12	41	35	54
化学・金属材料			40	24	36	32	15	16	32	12	36
機械器具			43	11	37	23	2	5	26	14	24
小売業			56	32	57	21	2	8	41	25	50
衣料・身の回り品			65	35	65	7	17	16	48	32	46
食料品			49	25	49	37	9	10	37	21	46
日用雑貨			54	37	60	13	1	4	42	32	53
耐久消費財			62	33	48	23	15	1	51	35	57
余暇関連			53	28	54	24	8	3	30	10	54
サービス業			33	22	38	-	12	-	25	21	34
企業関連サービス			31	19	32	-	11	-	19	15	28
個人関連サービス			38	29	55	-	16	-	37	33	49

- (注) 1. 調査項目: 業況(良い・普通・悪い)、売上高(増加・ほぼ同様・減少)、仕入価格・販売価格(上昇・ほぼ同様・低下)、製品商品在庫(過大・適正・不足)。  
2. 売上高: 製造業は生産額。  
3. 販売価格: サービス業は料金単価。

# 業況DI・業況見通しDI(業種別)

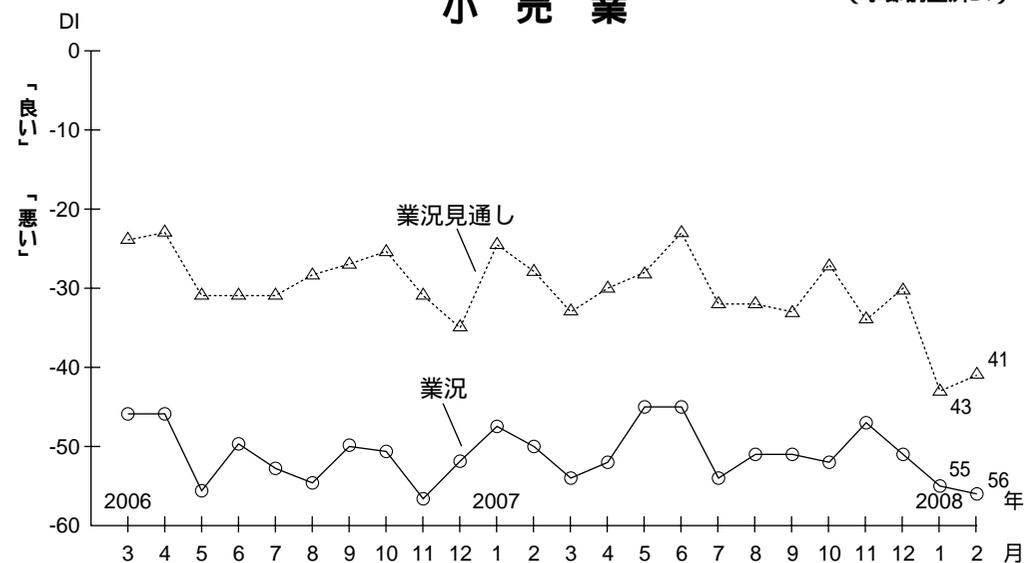
## 製造業

(季節調整済DI)



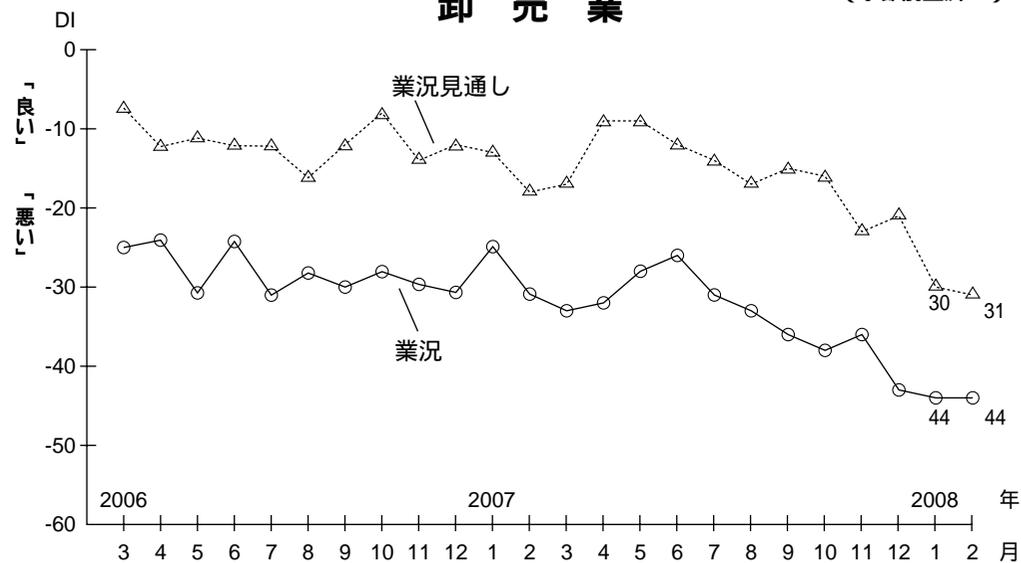
## 小売業

(季節調整済DI)



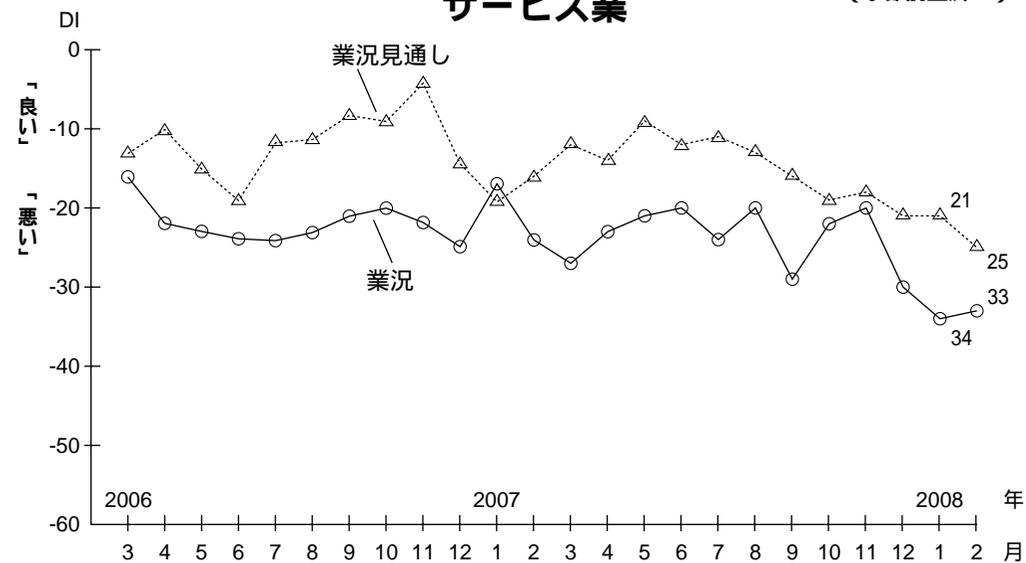
## 卸売業

(季節調整済DI)



## サービス業

(季節調整済DI)



# 業況DI・業況見通しDI(細分類)

製造業			業況					
対象数	回答数	回答率	2月		今後3ヶ月間見通し(当月比)			
1,125	442	39.3%	悪い	良い	悪い	良い		
			-100	0	100	-100	0	100
衣料・身の回り品	1. 繊維工業							
	2. 織物製衣服							
	3. ニット製衣服							
	4. 下着その他繊維製品							
	5. 革製履物・革製品							
	6. かばん・袋物							
	7. 貴金属・宝石							
	8. 装身具・装飾品							
住宅建物	9. 家具							
	10. 建具							
	11. 洋食器・刃物・金物							
	12. 建設用金属製品							
紙・印刷	13. 紙製							
	14. 紙製容器							
	15. 印刷							
	16. 特殊印刷							
	17. 製本・印刷加工							
材料・部品	18. 工業用プラスチック							
	19. 化学工業							
	20. ゴム製品							
	21. なめし革・革製材料							
	22. 窯業・土石製品							
	23. 鉄鋼・非鉄金属							
	24. 金属素材製品							
	25. 金属被覆・熱処理							
	26. ボルト・ナット・ねじ							
	27. ばね・他金属製品							
一般・精密機械等	28. 金属加工機器							
	29. 生産用機械							
	30. はん用機械							
	31. 事務・サービス機器							
	32. 金型							
	33. 自動車・同附属品							
	34. 計量・測定・分析器							
	35. 医療用機器							
	36. 理化学・光学機器							
電気機器	37. 発電・送電・配電器							
	38. 照明・電子応用装置							
	39. 電気計測器							
	40. 情報通信機器							
その他	41. 電子部品・デバイス							
	42. パン・菓子							
	43. その他の食料品							
	44. がん具・事務用品							
	45. がん具・事務用品							

卸売業			業況					
対象数	回答数	回答率	2月		今後3ヶ月間見通し(当月比)			
875	365	41.7%	悪い	良い	悪い	良い		
			-100	0	100	-100	0	100
衣料・身の回り品	1. 男子服							
	2. 婦人・子供服							
	3. 靴・履物							
	4. かばん・袋物							
	5. 装身具・身の回り品							
	6. 野菜・果実							
食料品	7. 食肉							
	8. 生鮮魚介							
	9. 酒類・飲料							
	10. 茶・のり・乾物							
	11. 菓子・パン類							
日用雑貨	12. 紙・紙製品							
	13. 陶磁・ガラス・什器							
	14. スポーツ・玩具							
	15. 文房具・事務用品							
	16. 医薬品							
	17. 化粧品							
建築住宅関連	18. セメント・板ガラス							
	19. 管工機材							
	20. 木材・他建築材料							
	21. 家具・建具							
	22. 室内装飾品							
	23. 電設資材							
化学・金属材料	24. 塗料							
	25. ゴム・プラスチック							
	26. その他化学製品							
	27. 鉄鋼・石油・鉱物							
	28. 非鉄金属							
	29. ボルト・ナット・ねじ							
機械器具	30. 金属加工・事務機器							
	31. 建設・他一般機器							
	32. 自動車・自動車部品							
	33. 精密・医療用機器							
	34. 家庭用電気機器							
	35. その他電気機器							

## このグラフのみかた

各項目とも0を基準に左右のグラフの長さで業況の「良い」・「悪い」の程度を判断する。  
 ただし 印は全回答が「普通」ないしは「ほぼ同様」、印は「良い」、「悪い」の回答数が同数を示す。

(注)平成20年1月調査より、事業所数の変化や日本標準産業分類の改定案などを参考に、細分類の表記を変更(統合や分割含む)したものがありますのでご了承ください。

小売業			業況					
対象数	回答数	回答率	2月		今後3ヶ月間見通し(当月比)			
875	300	34.3%	悪い	良い	悪い	良い		
			-100	0	100	-100	0	100
衣料・身の回り品	1. 呉服・服地・寝具							
	2. 男子服							
	3. 婦人服							
	4. 子供服							
	5. 靴・履物							
	6. かばん・袋物							
	7. 雑貨・身の回り品							
	8. 時計・眼鏡							
	9. ジュエリー製品							
食料品	10. 各種食料品							
	11. 酒							
	12. 食肉							
	13. 鮮魚							
	14. 野菜・果実							
	15. 菓子・パン							
	16. 米穀類							
	17. コンビニエンスストア							
	18. 茶・のり・乾物							
日用雑貨	19. 料理品							
	20. 家庭用品・他什器							
	21. 医薬品							
	22. 化粧品							
	23. 燃料							
耐久消費財	24. 文房具・事務用品							
	25. ディスカウントストア							
	26. 自動車							
	27. 自転車							
	28. 家具・インテリア							
余暇関連	29. 家電・電気機器							
	30. 書籍・雑誌							
	31. スポーツ用品							
	32. がん具・娯楽用品							
	33. 楽器・CD							
	34. 花・植木							
	35. 中古品							

サービス業			業況					
対象数	回答数	回答率	2月		今後3ヶ月間見通し(当月比)			
1,000	319	31.9%	悪い	良い	悪い	良い		
			-100	0	100	-100	0	100
企業関連	1. ソフトウェア業							
	2. 情報処理サービス業							
	3. 情報提供サービス業							
	4. 映像・音声制作業							
	5. 出版業							
	6. その他情報通信業							
	7. 道路貨物運送業							
	8. 倉庫業							
	9. 道路付帯サービス業							
連	10. 駐車場業							
	11. 医療付帯サービス業							
	12. 建築設計業							
	13. 他土木建築サービス業							
サ	14. デザイン業							
	15. 機械設計業							
	16. 他専門サービス業							
ス	17. リネンサプライ業							
	18. 廃棄物処理業							
	19. 機械修理業							
	20. 産業用機器賃貸業							
	21. 事務用機器他賃貸業							
	22. 広告・ディスプレイ							
	23. 計量・非破壊検査業							
	24. 建物サービス業							
	25. 職業紹介業							
	26. 警備業							
個人関連	27. 労働者派遣業							
	28. 不動産取引業							
	29. 不動産賃貸・管理業							
	30. 一般飲食店							
	31. 酒場・ピヤホール							
	32. 宿泊業							
	33. 普通洗濯業							
	34. 理容業							
	35. 美容業							
	36. 旅行業							
	37. 冠婚葬祭・生活関連							
	38. スポーツ施設提供業							
	39. 遊技場							
	40. 自動車整備業							

## 《規模別景況》

2月の業況DIを規模別にみると、「中規模」は前月比7ポイント悪化して 38、「大規模」は5ポイント悪化して 29となった。一方、「中小規模」は3ポイント増加の 42、「小規模」は2ポイント増加の 51とわずかに戻した。

前年同月比売上高DIを規模別にみると、「小規模」は前月比4ポイント増加の 50、「中小規模」が3ポイント増加の 42、「大規模」も3ポイント増加して 21「中規模」は2ポイント増加の 37とすべての規模で改善したものの、前月の大幅悪化分を戻しきれていない。

当月と比べた今後3ヶ月間(3~5月)の業況見通しDIを規模別にみると、「大規模」( 13)は前月比3ポイント減少と連続して悪化した。「中規模」( 27)は2ポイント増加、「中小規模」( 33)は1ポイント増加と前月の大きな悪化からわずかに戻した。「小規模」( 38)は横ばいと前月の大幅悪化と同水準である。

## 景況指数表 (規模)

・指数値(%): DI = 「良い」・「増加」等企業割合 「悪い」・「減少」等企業割合

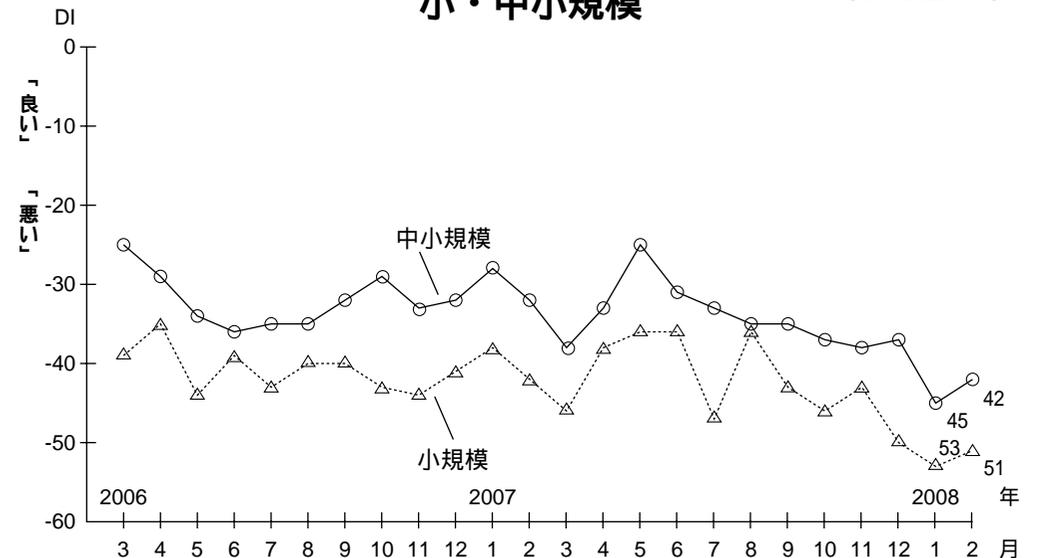
調査規模	調査対象企業数	2月の景況						今後3ヶ月間の見通し		
	回答企業数	業況	売(前)上月高	売(前)前年同月比高	仕(前)入月価格	販(前)売月価格	製品商品在庫	業(当)月比	売(当)上月比	売(前)年同期比
全体	3,875	41	24	39	29	4	11	29	21	38
規模	小規模	51	31	50	24	7	6	38	32	49
	中小規模	42	26	42	35	3	10	33	23	39
	中規模	38	24	37	25	4	10	27	15	36
大規模	29	8	21	34	3	21	13	6	18	

(注) 規模 小規模: 1~9人(製造業、卸売業、サービス業)、1~2人(小売業)  
 中小規模: 10~19人(製造業、卸売業、サービス業)、3~4人(小売業)  
 中規模: 20~49人(製造業、卸売業、サービス業)、5~19人(小売業)  
 大規模: 50人以上(製造業、卸売業、サービス業)、20人以上(小売業)

## 業況DI(規模別)

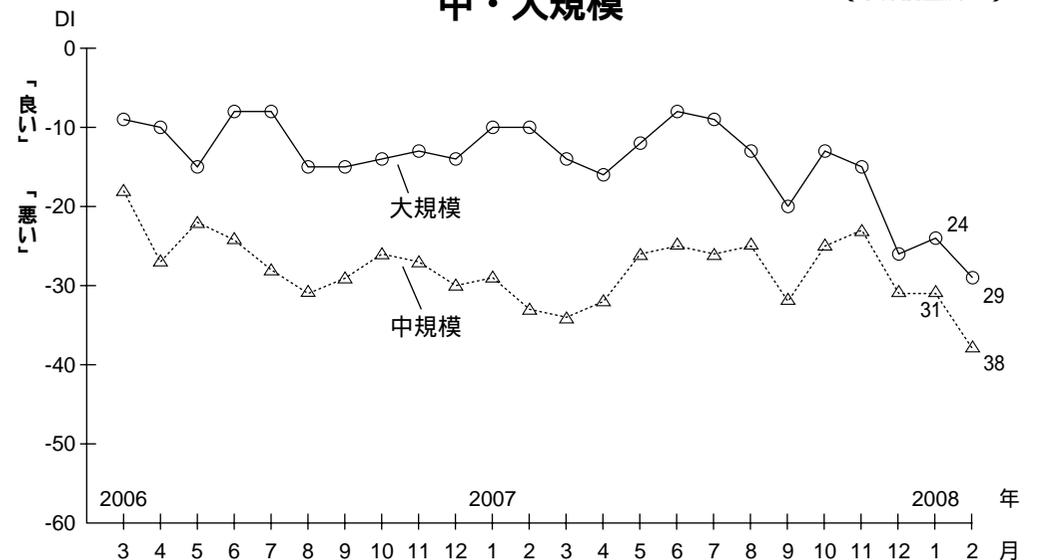
### 小・中小規模

(季節調整済DI)



### 中・大規模

(季節調整済DI)



## 【自由意見記入欄の内容】

景況調査票の自由意見欄に402件の貴重なご意見をいただきました。ご多忙中にもかかわらずご記入いただき、感謝申し上げます。今回の特徴としては「景気の状態はさらに厳しく、先行きに対して不安」とするご意見が数多く寄せられました。また、「原材料・仕入価格の高騰が続いているが、価格転嫁が困難」「サブプライム問題の及ぼす影響懸念」「消費の冷え込みによる売上不振」といったご意見も目立ちました。分類項目ごとのご意見の数は以下のとおりです。

分類項目	意見数
景気の状態と見通し	122
原材料・仕入価格	93
業界や地域の動向	59
人材の確保・育成	36
売上・収益	31
金融・資金繰り	19
顧客・得意先	18
海外・国際化	9
その他	15
合計	402

以下に、それぞれの項目ごとに特徴的なご意見を掲載させていただきます。なお、紙面の都合上、多少の加筆・修正を加えさせていただきました。

### ①景気の状態と見通しについて

春一番が東京の街を訪れるようになると、夏から秋に向けての新作の準備に追われる。昨年より一歩進んだ製品を世に出して、新しい需要を呼び込む作業が今年も続く。  
(装身具・装飾品製造業)

受注金額は前年と同じベースであるが、原材料の仕入が石油価格高騰などにより上昇している状況。売上維持が厳しく、利益幅も少なくなってきた。先行不透明。  
(印刷業)

景気が良いのは上場企業のみで、中小企業はナベ底不況にあえいでいる。売上高は前年比で減少の一途。これがいつまで続くのかが不安。政府は景気対策に真剣に取り組んでほしい。  
(工業用プラスチック製造業)

今年はサブプライム問題に関連してアメリカの景気がどうなるのか、また世界経済や日本経済の動向がとても心配な一年です。当社が持ちこたえ、発展するために、何をすれば良いのかを考え、実行するのみです。

(情報通信機器製造業)

食の「安全・安心」に対する関心の高まりから、加工原材料が国産にシフト、加えて飼料穀物の高騰から商品価格が急騰。商品仕入価格及び、諸経費の上昇分を売価に転嫁できず、粗利益率が低下。日を追うごとに最終利益が減少する苦しい展開が続いている。  
(食肉卸売業)

改正建築基準法の影響は甚大であり、それを原因とする倒産も増加している。また、原油高による各仕入品のコスト増、資材の値上がり、業界不振が本格化。いよいよスタグフレーションの恐れ。(セメント・板ガラス卸売業)  
消費が一段と冷え込み、景気の下振れが始まっている。原材料の値上がりにより売価の値上げはさけられず、消費はますます不振。(家電・電気機器小売業)  
建築確認の遅れにより、長期の不況と倒産が続出している。当社は前年比大幅なマイナスで非常に危機感を感じている。  
(産業用機器賃貸業)

人材紹介業は景気の悪化が直接売上に影響する。今年の景気にその気配を感じる。景気に左右されない価値ある職種人材の開拓を急ぎたい。(職業紹介業)  
昨年の暮れより売上が下がる一方です。先が見えず、従業員の給料を支給するのがやっとです。今後の景気はどうなるのか心配です。  
(宿泊業)

### ②原材料・仕入価格について

原材料価格の高騰に反比例して製品単価の値下げを強いられています。仕事量が少ないため、しかたなく仕事をしている状況です。  
(建具製造業)

これ以上原材料の価格が高騰すると採算が合わなくなり、存続が難しくなります。すでに再値上げの話がきています。(工業用プラスチック製造業) 原材料価格が上昇しても、そのコスト増を単価に乗せられず、苦慮しています。特に大手企業は認めてくれないケースが多い。(金属皮膜・熱処理製造業) 原油高に始まり、繊維原料の多くも値上は必定です。「原料高の製品安」と言ったところ。(男子服卸売業)

パン屋をやっておりますが、各種の値上げ(包装紙・原材費等)で非常に厳しい局面を迎えています。現在は値上げをしておりますが、他店の動向をみながら、いま色々と考えております。(菓子・パン小売業)

一般商品の価格は上昇しているが、当業界では、薬価改定による値下げが4月より行われる。また、かぜ等の要因で上昇していた大衆薬の売上げも春先にかけて下降するものと思われる。(医薬品小売業)

原油の値上により、昨年の仕入価格が大幅に増加し、収益に大きな影響をもたらしています。現状では、お客様への価格の値上げは出来ない状況なので、あらゆるコストダウンをしております。が、もはや限界で、今後は人員の削減・給与の削減などを進めなければならない状況です。(リネンサプライ業) 原油高騰による材料の値上げは厳しく、材料会社の社員がこの1年間で11回目の値上げのお願いだと言って笑っていました。ただただあきれられるばかりです。企業努力だけでは限界です。(普通洗濯業)

### ③業界や地域の動向について

私はこの業界で三代目として現在も現役です。同業の皆さんは海外それもアジアに右にならへのように行き、今の浅草は本当に元気がありません。地場産業である靴業界がこんなことではだめです。(革製履物・革製品製造業) 製版・印刷業界は相変らずの受注獲得競争に明け暮れ価格下落が続いています。今期の売上総利益は昨年より減少が顕著になっています。業績回復を最優先事項として頑張っています。(製版業)

水産物の多くは輸入に頼っているが、ロシア、中国、欧米等に価格面で買い負け続けている。消費段階で価格上昇を容認しない限り、食材として後

退してしまう可能性があると思われる。(生鮮魚介卸売業) 中国製ギョーザ中毒事件をきっかけに人々が食への関心を高めてくれたら良い。「安い品物」には、何らかの理由があるはずである。専門性を活かして、多少高くとも品質と素性の確かなものを提供していきたい。(米穀類小売業) 商店街の現状は大変にきびしく、見通しがまったく立てづらく、困ったものである。特に連休が続いている日は人通りが悪い。消費意欲がなく、このままだと多くの商店街がつぶれて行く。(化粧品小売業)

私共のお客様は製造業が多いのですが、最近では元気のない会社が増えています。空洞化現象の影響と思われます。(その他土木建築サービス業) クリーニング業界は石油の高騰により大変な影響を受けており、資材は昨年の倍以上になったものもある。値上げしたくても中小零細では競争力が無く、消費者の出し控えが怖いため、値上げに踏み切れない。当社は売上げが大幅に減少したため、今期は大幅赤字になってしまった。(普通洗濯業)

### ④人材の確保・育成について

技術の継承についての人材確保が困難。また育成についても小企業として時間と資金のやりくりについて常に悩むところ。特にゆっくり教育する時間がないのが一番の悩みです。(工業用プラスチック製造業)

合同企業説明会、学内説明会に年間各5回参加した。結果は内定を3名出しましたが、全てキャンセルとなりました。以前はすんなり決まりましたが、近年大企業の求人が増えた影響を受けているようです。(鉄鋼・非鉄金属製造業) 社員の年齢が高くなり、定年退職者が増えてきています。早急に技能や販売テクニックを学ばせねばと考えています。ハローワーク等を利用して人材確保に多忙の毎日です。(金属加工機器製造業)

景気の事もありますが、後を継ぐ者がいないため、何時やめるかを絶えず考えている。しかし在庫やお客様のことを思うと、簡単にはやめられずに過ごしているのが現状です。(照明・電子応用装置製造業)

人材の育成に悩んでいる。学校・家庭の基礎教育に疑問を持つ。経済のグローバル化への対応の遅れが大変気になります。(理容業)

## ⑤ 売上・収益について

価格のダウンにより、同じ数量を販売しても利益額が減少。数量を増やすには、更に価格をダウンさせるため、ますます競争激化。適正な水準とはどこをいうのか？まわりはシャッター通りです。（織物製衣服製造業）  
中小企業は売上、収益共に良い方向に向いていない。中国からの輸入食品の安全性に生活者が不安視しているため、食品は値上がりが進んでいて、安値販売できる商品が少なくなっている。（野菜・果実卸売業）  
売上の減少、利益の減少とダブルパンチで、先行きが不安である。同業他社に勝つためには、努力だけでは勝つ事が出来なくなってきました。体力が持ちません。消費の減少、客数の減少が気になります。（家具・インテリア小売業）  
ここにきて物件売買の動きにブレーキがかかっています。要因は値上がり見込みで購入してきた業者物件が売れないためです。（不動産取引業）

## ⑥ 金融・資金繰りについて

売上は多少上がったが、原材料の値上がりにより利益は減少。在庫も増えたため資金繰りは苦しい。（紙製容器製造業）  
モデルチェンジに乗り遅れたため、前年度より売上が停滞しております。これまで経験したことのない原材料価格の高騰に加えて、サブプライム問題など中小製造業の根幹を大きく揺るがす状況に対処し、事業に専念できるよう、金融等の支援を期待する。（ボルト・ナット・ねじ製造業）  
運転資金の借入について、返済は滞りなく進んでいるにも関わらず、借入の要望に対し銀行の対応が鈍い。全体的に貸し渋りを感じる。（家具・建具卸売業）

## ⑦ 顧客・得意先について

弊社は幸いなことに全国で一番販売力のある企業と取引がありまして、今のところ忙しい毎日です。ただ、競争相手も沢山いますので、信用・信頼を今まで以上に評価される組織を築いて行きたい。（特殊印刷業）

景気の見通しが不安のため、得意先の引き締めが非常に厳しく、当社の売上も落込みが予想されます。後は努力あるのみです。（金属加工・事務機器卸売業）  
合併、統合により問屋の数が減り、競合が少なくなっているためか、仕入原価が上昇傾向になっている。中小問屋が減少し、大きな問屋ばかりでこちらの意思が全く通らず商売がやりにくい状況が続く。（医薬品小売業）

## ⑧ 海外・国際化について

将来的な国内市場の縮小予想に加え、得意先の海外進出により、当社も海外への進出の必要性が現実味を増している。そのための資源（人・物・金）が乏しい。特に海外進出に必要な人材（技術・管理・経営能力）の確保はかなり難しい。また得意先の製品の変化に追いつけないことへの将来的な不安も最近感じ始めている。（金属加工機器製造業）  
少子高齢化が進んでいる我が国において、国内の売上は減少することになると思います。その対策として、海外の販路をどのように拡大するかが課題である。（生産用機械製造業）  
中国への仕事の流出による影響は深刻な状況です。今後の日本の工業界の方向はどうなるのか、とても心配であります。（照明・電子応用装置製造業）

## ⑨ その他

量産品は中国等へシフトしているため、国内での製造業の生き残りは非常に厳しい。ニッチ分野、新規分野に活路を求めている。（窯業・土石製品製造業）  
今の日本の商売の環境はどうなっているのか。屋といわれるお店が続けられなくなり、コンビニ・スーパーだけになるのか。そこには人間味のない、ただ買い物をするという状況しかみえない。（生鮮魚介卸売業）

お詫びと訂正 先月の景況調査6ページの表題「都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況」は「都内中小企業の原油価格高騰に関する調査」の誤りです。訂正し、お詫び申し上げます。